

先驅者の夢 (七卷)

帝キネ時代映畫

原作者 今東光
脚色者 堀川波吉
監督者 渡邊新太郎
撮影者 高橋武利

主要役割

狩野隼人 草間實
平林三五郎 明石緑郎
野新十郎 喜多見順
傳吉 高島泰登
その娘お市 平塚泰子
オールコック公使 横田惣一郎
英國人技師 星田英二
道中師 嵐 狂二
藝者阿仙 千草香子
道中師の情婦 水月龍太郎
小僧 水上龍太郎

〔梗概〕安政五年！黒船の出現によつて幕府の役人平林三五郎は渡來した英國公使の護衛を承つたが、憂國の士たる彼は深く外人を憎み、公使の従僕傳吉を曾國奴とし、これを斬り捨て、當時の先驅者狩野隼人の邸に食客として潛伏してゐたが、三五郎探査の急なるを知つた隼人は彼を伴ひ旅に出るが、計らずも道中で傳吉の娘お市を無頼徒の毒手から救ふ。さて途中三五郎は別れて京都へ、隼人は攝津の燈臺屋敷に世の喧嘩をさけて關學に就ける。お市は隼人に救はれた後、父の遺言に従ひ外人の世話になるが隼人を忘れかね攝津へ來たのを機會に隼人を燈臺屋敷に訪れる。その頃京都にあつて攘夷黨の志士となつた三五郎は一夜同志と攝津の外人屋敷を襲ふ。「父の仇」お市は驅けつけた隼人の助太刀で本懐をさげることが出来た。

安政五年！黒船の出現！攘夷論の沸騰！喧嘩なる當時の世相を扱つて、拘束された時代劇に新しい息吹きを與へやうとした、だが結果に於てこれは明らかに失敗である。新しくは粧へども認識不足と消化不良な意味なしのモンタージューは徒らに感情を混乱に陥れるに役立つのみで効果に極度に弱められてゐる。結局この製作關與者の態度なり意圖なりは流行を追ふ淺薄なモダン・ガールの虚名心さ何等異なるところないものであつて大いに熟考を要すべきである。

草間實は塗り過ぎてゐる、時代の先驅者らしい風貌の片鱗だにも求められない。明石緑郎は鍛へられた一腕一を以て終始草間實を抑へてゐる。平塚泰子は唯可憐な存在だ。高島登の底力のある尖銳の技倆は帝キネ映畫の持つ體たつた一寶である。池田重近の興行價値——今東光原作に多少の吸引力はあろうが、誤謬と矛盾とで觀る者を苦しめる。あまり多くは望めない。

(四月三日 常盤座)